

3 様式第 4 号 (第 11 項関係)

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和 3 年度第 1 回西脇市上下水道事業審議会
開催日時	令和 3 年 8 月 2 日 (月) 午後 2 時 00 分～ 4 時 00 分
開催場所	西脇市役所 3 階 大会議室
出席委員の氏名又は人数	長峯委員、岡本委員、時政委員、見坂委員、臼井委員、藤原廣司委員、内橋委員、藤原悟委員、今中委員、足立委員
欠席委員の氏名又は人数	
出席職員の職・氏名又は人数	黒坂技監、田中部長、岡本課長、内橋課長、伊藤課長、藤本補佐、後藤補佐、松原補佐、吉山主査、藤原
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴人の数	0 人
議題又は協議事項	1 諮問 (市長から審議会会長へ) (1) 水道ビジョン・経営戦略の改定について (2) 下水道事業経営戦略の見直しについて 2 議事 (1) 水道ビジョン・経営戦略の改定、下水道事業経営戦略の見直しについて (2) 水道ビジョンの検証について (3) 水道事業会計経営戦略と実績の比較について (4) 下水道事業会計経営戦略と実績の比較について (5) 今後の日程について
会議の記録 (概要)	
発言者	別紙のとおり
問合せ先	西脇市建設水道部経営管理課 TEL 0795-22-3111 FAX 0795-22-8573
委員の署名	(会長) <u>長峯 純一</u> <u>臼井 茂樹</u> <u>内橋 和宏</u>

会議の記録（概要）

発言者	
会長	<p>○ 開会</p> <p>○ 委員の互選により長峯委員を会長に選出</p> <p>職務代理に岡本委員を指名します。 本日の審議会の会議録署名委員に臼井委員と内橋委員を指名します。</p>
委員	<p>○ 今回の審議会について事務局から説明</p> <p>○ 水道ビジョン・経営戦略の改定及び下水道事業経営戦略の見直しについて事務局から説明</p> <p>7ページの黒と赤の矢印の流れはどのように見ればいいのか。また、黒丸から赤丸へ、赤丸から黒田庄地区公共への矢印をどのように見ればいいのか。</p>
事務局	<p>黒丸は既に処理施設を廃止している所で、黒矢印は次の処理区、処理場に接続しているルートを示しています。今後の計画では、北部処理区を黒田庄地区の公共下水道に接続するという工事が出てきます。中部地区についても接続します。芳田地区は明楽寺落方地区から順番に下流へ送っていき、西脇公共下水道に最終的に全部がつながっていきます。合山地区は現在つながっていますが、更に上流の出会地区も今後つないでいきます。高松地区については、現在のところ板波町に送って接続する計画としています。</p>
会長	<p>○ 水道ビジョンの検証について事務局から説明</p> <p>水道ビジョンについては、当時、所管する厚生労働省から全国の自治体に作成するよう通達があり、西脇市も水道ビジョンを作成する中で目標を掲げ進行管理を行い、実現を図ってきたということです。自己評価であるこの資料は、すでに承認され公表されているのでしょうか。</p>

事務局	この自己評価は、ホームページではまだ公開していません。
会長	本日、承認するのではないのですね。
事務局	ここで承認をいただいて公表するものではなく、内部評価として水道ビジョンの検証の現状を委員の皆さまに報告する資料です。
会長	内部評価した結果として、今後、市民にも公開されるということですね。
委員	2ページの上から四段、配水池貯留能力の適正化の評価が「△」になっていますが、これは充足していないという評価ですか。充足はしているが、何かあった時に別途再計画をするということであれば、現状は充足していると推察します。それと、耐震化の推進で、西脇市の状況が他市よりも高いから「○」にしたと説明を受けましたが、他市と比べるのではなく、本当に安全を確保できているのかという観点から評価すべきではないかと疑問に思います。
会長	何をもって「○」や「△」としているのか、説明を聞いていても漠然としていただけでした。目標が達成されているから「○」なのか、計画通りに進んでいるから「○」、計画より遅れているから「△」なのか、聞いていてもわかりませんでした。
事務局	<p>配水池の貯留能力の適正化というところで、配水能力として不足しているかについて、水回しという点では水が不足するということはない状態ですが、能力としては12時間確保できるという項目がありまして、達成できていない配水池もあり、課題であるにとらえています。水需要に関係するところでもあるので、慎重に見極めていきたいということで、今後再検討していく項目としており、「△」という評価にしています。</p> <p>耐震化の推進については、他市と比べた評価を説明しましたが、本市においも年間約2 Km程度の老朽管の更新を順次行っていく経営戦略を立てております。そ</p>

<p>会長</p>	<p>それを毎年継続していくことで、徐々にではありますが、耐震化を高めていくということで目標を掲げているので、他市との比較も含め、取り組んでいるというところで「○」という評価をしています。</p> <p>ホームページで公開するときには、市民が見てもわかるように、こういう意味で「○」にしている、「△」にしているといったコメントがあるといいのではないかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>耐震化ということは、老朽管の更新ということも入ります。水道管が 372Kmほどあり、このすべてをやっていくのは、費用がかかりすぎて不可能です。主要な幹線管路をまず耐震化 100%にもっていきたいと考えており、これについては計画よりも早く進んでいます。主に、市街地で 150mm以上の管の敷設が進んでおり、「○」という表現になりました。</p> <p>配水池については万が一、送水できないような場合、各山にある配水池が通常送っている計画流量に対して通常送っている流量分の12時間分を確保できるような容量を持たせることとなっています。若干12時間に届かない部分があることと、水需要の変化などにより門柳地区など40棟ほどの末端管路の部分に配水池を作るとなるとかなりの投資が必要になりますので、代替えの考え方がないか検討しています。圧力があれば配水池を作らなくても直接送ることが可能で、どの程度のエリアまで送れるのか、そういったことも勘案して実施していきたいと考えており、現在のところでは「△」という表現をしています。</p>
<p>会長</p>	<p>「△」はまだ他にもいくつかあります。最終目標値に対してどの辺まで達成できているか、計画期間内で目標値に到達していなくても、ここまで達成できていれば一応「○」というような考えでしょうか。「△」のところは、次の計画期間で目標実現を図る、その辺りは今回の見直しのところで反映されてくるのかなと思います。</p> <p>○ 水道事業会計経営戦略と実績の比較について事務</p>

<p>委員</p>	<p>局から説明</p> <p>今の収支、料金体系で、いろいろな工事、メンテナンス等をやっていこうということに対し、将来どうするかは今後決定されると思いますが、この表を見る限り今どういう状況にあるのでしょうか。今の料金を続けていくのは難しいのかなという印象を受けたのですが、実際のところはどうかのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>収益的収支の関係から申し上げますと、昨年度のコロナ感染症対策に係る水道料金無償化の影響があるにしましても、水道事業に関しては厳しい状況が続いております。令和2年度決算におきまして、累積欠損金が3億3,000万円ほど生じております。このままの料金体系でいけるのかという話が当然出てくるわけですが、その一方で西脇市の水道料金の現状は、基本水量が県下で一番高いこともあって県下29市の中で一番高い基本料金となっております。この厳しい状況の中、このままの料金体系でやっていけるのかということも含め、経営戦略の見直しという作業の中でさまざまなシミュレーションを用いながら計画を立てていこうと考えているところでございます。</p> <p>このままやっていけるのかどうかということ抜きにしますと、正直なところ基本水量及び基本料金の引下げは避けて通れない課題かと思いますが、何年後にできるのかということは不明であります。いずれにしても、経営状況は厳しい状況でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>関係するのが資料5ページになりますが、会計上は収益的収支と資本的収支の二本立てになっております。収益的収支は毎年度の経常的な収入・支出、資本的収支は施設の維持・更新となっております。資料5ページでいうと、令和2年度の収益的収支において大きく赤字となったということで、原因は新型コロナウイルス感染症対策で水道料金を無償化したことによるものだと思いますね。</p>
<p>事務局</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた水道料金の免除施策については、昨年6月検針分から半年</p>

間、一般家庭においては全額免除、法人並びに市外の経営者等に関しては基本料金免除ということで、税込額で約3億7,200万円の水道料金免除をさせていただきました。ただ、一般会計からの補助金や県営水道料金の3カ月免除もあり、最終的に水道事業会計の負担分として税抜換算で約1億1,700万円の持出しを行いました。資料5ページの当年度純損益のグラフでいう1億1,100万円の純損失を生じたわけです。この免除施策がもしなければ、微妙ではありますが、利益が生じたのではと思っておりますが、昨年度の免除施策については今申し上げました規模で実施させていただきました。

会長

計画になかった収入減が、昨年度に生じたということで、全額を水道事業会計で賄ったわけではなく、市の一般会計でも賄ったということですね。累積損益のグラフでは、令和3年度には計画値よりも下がったところに実績値がありますが、この下がった部分として表れていると考えていいのでしょうか。

事務局

コロナの関係だけで、1億円以上の乖離が生じています。

会長

下がった部分はゆくゆくどこかで解消しなければならないということで、先ほどの市長の諮問内容からも料金の改定が必要になるかもしれないという含みがあるように感じました。次回以降、料金体系の資料も出てくるかと思いますが、料金体系を少し細かくしていく必要があるのではないかとということですね。基本水量が高いので、使っても使わなくても同じ料金を払わなければならない、そこをもう少し細かくしていけば不公平感の解消につながるということですね。

耐震化などの投資は、計画よりは少な目で済んでいると、それが幸いして大きな累積赤字にはなっていない、その分抑制されているということですね。

神戸市以外の阪神間の自治体はすべて、水道料金の減額措置を取りましたので、西脇市だけでなく、どこの市町もその時の収入減をどう埋め合わせていくのか頭を悩ませているのではないかと思います。

<p>会長</p>	<p>○ 下水道事業会計経営戦略と実績の比較について事務局から説明</p> <p>下水道事業は、水道事業に比べ金額が多く、経費がかかっていることが表れています。家庭や企業から排水される汚水の部分と浸水対策等雨水の部分があり、雨水部分については受益者負担で求めるのではなく、公費負担として一般会計からの繰入となっています。そういったところが、水道事業と違うところです。</p> <p>収益的収支と資本的収支の二本立てになっており、収益的収支の減価償却費等が資金として蓄えられると思いますが、まだ資金は潤沢にあるのでしょうか。当面、資金が枯渇するということはないのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>下水道事業につきましては、水道事業と違い、一般会計からの繰入を行っている以上、あまり現金を置かないようにしています。経営状況と関係なく一定レベルで現金を持つということで、経営戦略上も現金預金残高の目標を示しておりません。</p>
<p>会長</p>	<p>経営戦略でみると、補填財源の損益勘定留保資金のところでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>補填財源につきましては、これが直接、現金預金と一致しているわけではありません。この損益勘定留保資金についても、一般会計からの繰入を行っているため、毎年、補填財源の残額があまり出ないように計画を立てています。そういったところでは、水道事業と状況が違っております。</p>
<p>会長</p>	<p>グラフを見ると、計画とほぼ一致する形で推移していますので、財政的に厳しくなっているということではないということですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>基本的には、一般会計からの赤字補填を解消するということが目標としております。概ね、そういう方向で推移しておりますので、今後5年間の経営戦略上の数値の見直しを行い、それでいけるかどうかというのが、今回の下水道事業会計の経営戦略の見直しという</p>

	<p>ことで、今から進めてまいります。</p>
<p>委員</p>	<p>一般会計からの繰入をゼロにするというのが目標になってくるわけですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今は、赤字補填分として、いろいろな形で基準外繰入を行っているのですが、まずはそれをゼロにすることが重要です。ゼロになった以降はプラスに転じるということではいけないと思いますので、その時点で新たな経営戦略につなげていくということで、今はとにかく一般会計繰入金金の赤字補填分の解消に向けて事業に取り組んでいるところです。</p>
<p>会長</p>	<p>資料5ページのグラフにありますが、法律上、一般会計から下水道事業会計に繰り入れることが認められているものが基準内繰入金です。それ以外に、市が独自に繰入れているのが、基準外繰入金です。この部分をなくすということですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>なお且つ、まずは3条の基準外繰入をなくしたいと考えています。</p>
<p>会長</p>	<p>今回は資料の説明ばかりでしたが、今後詳しい議論をしていくことになると思います。</p> <p>この審議会には、旧西脇市と旧黒田庄町の合併後の設置当初から関わっていますが、当初の課題は人口が減少し、水道料金収入、下水道使用料収入共に減ってきているということでした。それと同時に、施設が老朽化してきており、人口減少の中でこれをどう更新していくのかということ。それと、旧西脇市と旧黒田庄町の合併当時は料金体系が別体系であり、同じ市民になったのに料金が違うのはおかしいということでした。ただ、旧西脇市にしても旧黒田庄町にしても、それぞれの事情があり、地区によってサービスや水質、下水道の排水処理の仕方も異なっていました。そういったサービスを同じ市民として一定にしていく必要性など、いろいろな課題が一気に出てきました。時間をかけて料金を統一していくという計画を議論したことを覚えています。当時、春日浄水場など、いろいろ</p>

な施設も見に行きましたが、古くなった施設を廃止したり、中止したり、大木、上戸田といった浄水場が新しくできたり、この間いろいろな施設の再編、統合を見させていただいたということ、今日の説明を聞きながら思い出していました。

この10年間ぐらいを振り返ると、高度浄水処理を導入し、水質もだいぶ良くなってきており、少しずつですが、サービスがよくなっているように思います。ここに至って、公営企業会計上どういう状況になっているのか、今後、人口が増えていくことも考えられないし、この間、大口の企業の撤退もありました。用意する水量も少ない計画になっていくのではないかと思います。今後、大口企業を誘致できればよいですが、そういった予測は難しいところです。今後5年、10年、どういうまちづくりをしていくのかということも考えながら、どのくらいの水を用意していくのかということです。水も西脇市独自の水と県水の両方があり、県からの水は県から買っており、県が値上げすれば市もそれを受けて値上げするということにもなります。

せっかくのいい機会ですので、皆さんにも勉強してもらいながら、できるだけいい案を提案できればと思います。

○ 今後の日程について事務局から説明

(閉会)